

日本における伝統舞踊の近代化と芸術化
(artification)
武藤大祐 (群馬県立女子大学)

近年、美学や芸術社会学の文脈で議論される「芸術化 (artification)」の概念は、水族館における展示の形態や、料理の盛付け、ビデオゲームなどのように、従来は芸術と見なされなかった文脈に「芸術」的な価値が持ち込まれる現代の事例のみならず、かつて徐々に「芸術」的価値が付与されてきたジャズや写真といった歴史上の事例もその射程に収めるものである。

オッシ・ナウッカリネンは、「芸術化」とは「伝統的な語義での芸術とは見なされていないものが、芸術に似たものに変えられる、もしくは芸術的な思考や行動の様式から影響を受けたものに変えられるような状況やプロセス」と定義を試みている (Naukkarinen 2012)。ロベルタ・シャピロはこれを「人、物、活動の定義や様態の変容をもたらす複合的な作用の結果」とする (Shapiro 2012)。そもそも「芸術」の定義自体が容易ではないため、「芸術化」をめぐる議論も多様に展開されるが、西洋において職人的技芸が実用的価値を離れた審美的価値のもとに見られるようになることで「芸術 beaux-arts」が生まれた経緯をふまえば、料理であれ水族館であれ、もとの実用的価値から審美的価値への移行が「芸術化」の本質であるとひとまずまとめることができよう。

舞踊をめぐるのは、フランスにおいてブレイクダンスが舞台芸術の文脈と接点を持ち、ストリート・カルチャーから「芸術」へと変容していった過程をシャピロが考察している (Shapiro 2004)。シャピロによれば、1980年代から都市郊外の労働者居住区において、移民を含む若者たちのコミュニティにソーシャルワーカーが働きかけ、ブレイクダンスに関心のある若者たちの「自己肯定感の増進」と「社会包摂」の手段として、舞台芸術の文脈との接合が図られたという。他方、舞台芸術の側でもブレイクダンスは歓迎され、こうして「バトル」に象徴されるストリートの文化から「ヒップ・ホップ・ダンス (hip-hop ballet)」と呼ばれる舞台芸術が生まれ、後者に公的支援が注がれることで両者は対立することなく緩やかな連続体を形成した。

ところでこのような舞踊の芸術化は、ブレイクダンスに限らず、とくに 20 世紀以降、世界各地に生じている。典型的にはフラメンコやバラタナーティヤムであるが、つまりバレエを基軸として近代西洋に発達した芸術としての舞踊の型が他の様々な舞踊文化に影響を及ぼしていった「近代化」の過程を、まさにこの「芸術化」の概念で捉えることができるのである。いいかえれば、芸術

化をめぐる美学的な議論は、オリエンタリズムや文化帝国主義を含めた諸文化間の力学の問題としても展開できることになる。

バレエとそれ以後のアヴァンギャルドを含む近現代の芸術舞踊の歴史記述と比較すると、非西洋世界の近代舞踊史は具体的なエピソードが多く語られる一方で、論理的な展開として分析的に整理されることが少ない。ここに「芸術化」の概念を適用することで、抽象度の高い分析が可能になるとともに、異なる文化圏における近代舞踊史の比較も容易になるものと思われる。

そこで本発表では、一つのケーススタディとして、日本の大正期における新舞踊運動における芸術化に着目し、その細部を検討する。

シャピロとナタリー・エニックは、芸術化のプロセスに十の要素を見ている。すなわち、①元の文脈からの離脱、②呼称の変化、③カテゴリーの変化、④制度・組織の変化、⑤資金源の獲得、⑥法的基盤、⑦時間の概念の変化、⑧活動の個人化、⑨流通、⑩知的言説の形成であるが (Shapiro & Heinich 2012)、これらの観点は新舞踊を分析する上でも有効である。

新舞踊とは何かと問うなら、舞踊作品の内容の新奇性と同時に、「舞踊家」という新しい社会的カテゴリーの生成が重要である。すなわち歌舞伎俳優や、踊師匠とは異質な立場において舞踊を担う主体が舞踊家であるが、当然、彼らによる舞踊がどのような場で踊られ、どのような観客がそれを見て、何が語られ、どのように再生産されるのかといった、舞踊のあり方そのものも質的に変化している。とりわけ、坪内逍遙の『新楽劇論』(1904年)に刺激されながら、花街において見られた芸者から舞踊家への転身は、「芸術」という新たな概念と既存の舞踊文化との摩擦を生んだが、このことは当時の日本における舞踊の芸術化という出来事の輪郭をよく示している。

【文献】

- Shapiro, Roberta (2004) "The Aesthetics of Institutionalization: Breakdancing in France," *The Journal of Arts Management, Law and Society*, Vol.33, No.4, pp.316-335.
- Shapiro, Roberta (2012) "Avant-propos," *De l'artification: Enquêtes sur le passage à l'art*. Paris: Editions de l'école des hautes études en sciences sociale, pp.15-26.
- Shapiro, Roberta and Nathalie Heinich (2012) "When is Artification?," *Contemporary Aesthetics*, Special Issue Vol.4.
- Naukkarinen, Ossi (2012) "Variations in Artification," *Contemporary Aesthetics*, Special Issue Vol.4.